

# 浦賀水道と空母の航路

幅員1,400~1,750m

それを北行き、南行きの2航路に区切り、船舶は右側通行ですれ違う。

横須賀港へ入港は、北行き(北航路)

横須賀港からの出港は、南行き(南航路)

## 【避難範囲】

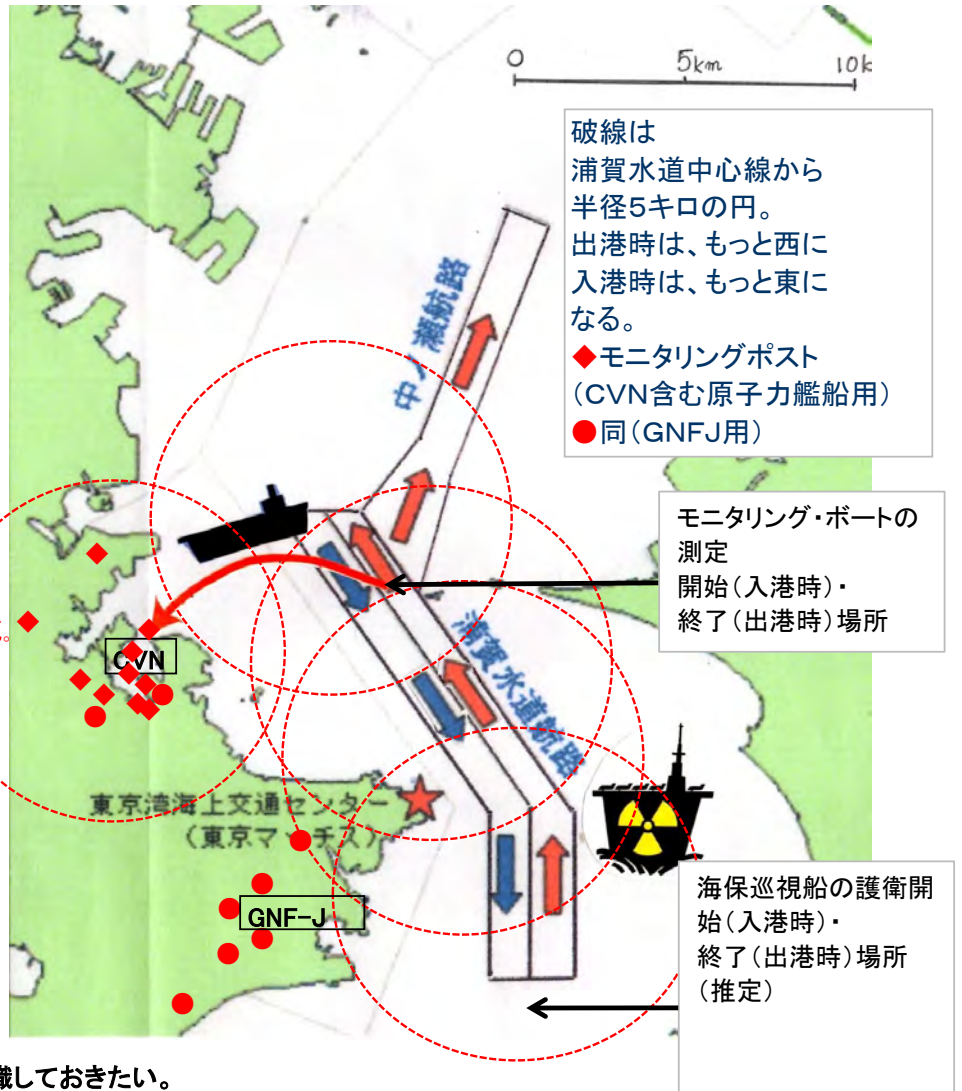
★空母の入出港時は、原子炉は稼働状態。その際は、「避難範囲」は移動しますが  
→もし、避難対象範囲が、  
避難対象範囲が3キロ~5キロだとしても  
応急対応範囲はより広域であるべき。

## 【監視体制】

★航路のそばに、モニタリングポストはなく  
★空母を追尾するモニタリング・ポストも  
基地内の海域しか調査しない。  
オンサイトの米軍任せではなく強化すべき。  
→観音崎や猿島・第二海ほにMTを設置。  
→ポストの追尾は半島から出る(入る)逆実施。  
(巡視船の「護衛」航行は浦賀水道に入る(入る)までのようなので、それほど無理な話ではない。)

## 【一般的な危険の再確認】

★また、横須賀基地は、航路帯の左側にあるため入港の為に右側を通行してきた空母は航路帯を横切って基地へ入ります。1988年に起きた海自の潜水艦「なだしお」と釣り船「第一富士丸」の衝突事故はこの危険な海域で起きた  
★また、原子力空母は横須賀を出港しても、相模湾など沿岸にしばらくいることも再認識しておきたい。



2016年2月作成： 原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会

# 過密な東京湾・浦賀水道を航行する 原子力空母の航路 と 問題点



出港する空母(2015年5月:ジョージ・ワシントン)

・横須賀基地を出て、浦賀水道を航行する。  
撮影地の中央公園から距離は約6キロ

入港する空母(2013年8月:ジョージ・ワシントン)

・浦賀水道を横断して 横須賀基地へ入る。  
撮影地の中央公園から距離は約5キロ